

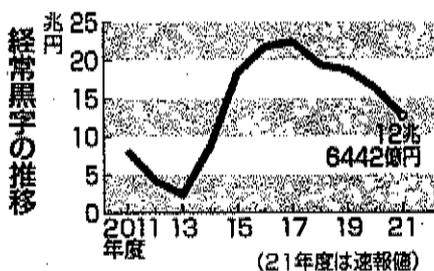
21年度経常黒字22%減

5/13 玉種

資源高響き 7年ぶり低水準

財務省が12日発表した2021年度の国際収支速報によると、海外とのモノやサービスの取引、投資収益の状況を示す経常収支の黒字額は、前年度比22・3%減の12兆6442億円となりました。黒字幅の縮小は4年連続で、14年度（8兆7031億円）以来7年ぶりの低水準。世界的な資源価格高騰により貿易収支が7年ぶりに赤字に転じました。

輸出額は世界経済の回復に伴い、鉄鋼や自動車などが伸び、25・1%増の85兆4957億円となりました。一方、輸入額は資源高を背景に原油や石炭などが増え、35・0%増の87兆1464億円。輸出額、輸入額ともに過去最高を更新しました。引いた貿易収支は1兆6507億円の赤字となりました。



21年度の国際収支

	2020年度	21年度
経常収支	162,673	126,442
貿易・サービス収支	2,364	▲64,468
貿易収支	37,770	▲18,507
輸出	683,504	854,957
輸入	645,734	871,464
サービス収支	▲35,406	▲47,960
第1次所得収支	188,252	215,883
第2次所得収支	▲27,943	▲24,973

(注) 単位億円。▲は赤字

を示すサービス収支も4兆7960億円の赤字。一方、配当や利子収入などを示す第1次所得収支は14・7%増の21兆5883億円。日本企業が海外子会社から受け取る配当金が業績回復で増えました。

22年3月の経常収支の黒字は、前年同月比2・8%増の2兆5493億円となり、2カ月連続で黒字となりました。貿易収支が1661億円の赤字となる一方、第1次所得収支が3兆2603億円の黒字となりました。